

専 門 教 養
令和 2 年 7 月
60 分

受 験 教 科 等
養 護 教 諭

注 意

- 1 指示があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 2 全て係員の指示に従って、静粛に受験してください。
- 3 机上には、受験票、筆記用具、時計以外のものを出してはいけません。
- 4 他の受験者の迷惑になるような行為、スマートフォン等の使用及び不正行為をしてはいけません。
- 5 解答時間は60分です。途中退出はできません。
- 6 問題冊子のページ数は、21ページです。はじめにページ数を確かめてください。
- 7 解答用紙に、**必要事項の記入やマークがない場合や誤っている場合には、解答は全て無効**となります。解答用紙の【1】の欄には、**受験番号を記入し、受験番号に対応する数字をマーク**してください。【2】の欄には、**氏名を記入**してください。ただし、【3】の選択問題を表す欄のマークは**不要**です。
- 8 問題冊子の余白等は、適宜使用しても構いませんが、どのページも切り離してはいけません。
- 9 問題文中の「学習指導要領」は、特に指示がある場合を除いて、平成29年、平成30年又は平成31年告示の「学習指導要領」を表しています。
- 10 問題の内容についての質問には一切応じません。

解答上の注意

- 1 解答は、問題文や解答用紙の注意事項に従って、解答欄にマークしてください。問題には、選択肢から選び解答する場合や、数字又は符号（-）を入れて問題文を完成させて解答する場合などがあり、解答方法が複数ある場合とどれか一つの場合とがあります。
- 2 「解答番号は 。」と表示のある問に対して、3と解答する場合には、次の（例1）のように解答番号 の解答欄の③にマークしてください。

(例 1)

解答番号	解答欄
<input type="text" value="1"/>	① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖

解答上の注意の続きを、問題冊子の裏表紙に記載してあります。問題冊子を裏返して必ず読んでください。

1 法令及び学習指導要領に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 学校保健に関する記述として、学校保健安全法施行令及び学校保健安全法施行規則に照らして適切なものは、次の 1～4 のうちのどれか。解答番号は **1**。

- 1 学校は、児童・生徒等の発育や健康状態等に関する調査を行ったときは、二十一日以内にその結果を児童・生徒にあっては当該児童・生徒及びその保護者に、学生にあっては当該学生に通知する。
- 2 学校医又は学校歯科医は、身体計測、視力及び聴力の検査、問診、胸部エックス線検査、尿の検査、その他の予診的事項に属する検査の結果や保健調査を活用して、児童・生徒等の診断に当たるものとする。
- 3 校長は、第二種の感染症である流行性角結膜炎の患者のある家に居住する児童・生徒等に対して、予防処置の施行の状況その他の事情により、学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで出席を停止させることができる。
- 4 校長は、感染症にかかっている児童・生徒等に出席停止の指示をしたときは、学校の名称、出席停止の理由、出席を停止させた児童・生徒等の総数の 3 項目について書面をもって保健所に報告しなければならない。

[問 2] 小学校学習指導要領体育の「各学年の目標及び内容」の〔第 5 学年及び第 6 学年〕の「内容」のうち「G 保健」に関する記述として適切なものは、次の 1～4 のうちのどれか。解答番号は **2**。

- 1 毎日を健康に過ごすには、明るさの調整、換気などの生活環境を整えることなどが必要であること。
- 2 体は、思春期になると次第に大人の体に近づき、体つきが変わったり、初経、精通などが起こったりすること。また、異性への関心が芽生えること。
- 3 病原体が主な要因となって起こる病気の予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高めることが必要であること。
- 4 心や体の調子がよいなどの健康の状態は、主体の要因や周囲の環境の要因が関わっていること。

2 救急処置に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 次の文章は、けが及びその処置に関する事例である。文章中の空欄 **ア** ・ **イ** に当てはまるものの組合せとして最も適切なものは、下の 1～6 のうちではどれか。解答番号は **3** 。

中学校 2 年生の生徒 A が、部活動中に顧問の教諭 B に付き添われて、保健室に来室した。生徒 A は、右肘あたりを支えながら「痛い。」と、顔をゆがめるほどの痛みを訴えて、話すことができなくなった。

養護教諭 C が、教諭 B に状況を聞いたところ、生徒 A は柔道の部活動中、相手の生徒 D と試合をしていたときに、生徒 D が生徒 A に対して右腕から右肩にかけて強く引っ張って背負い投げを行い、生徒 A が受身をした直後に痛みを訴えたことが分かった。

養護教諭 C が、生徒 A の上肢の状態を観察すると、肩関節の変形が見られ、腫れと強い痛みのため、動かすことができない状態であった。このことから養護教諭 C は、**ア** を疑い、すぐに **イ** 固定し、冷却しながら医療機関に付き添って受診させた。

- | | | |
|---|-----------------|--------------------------------|
| 1 | ア —肩関節脱臼 | イ —整復してから |
| 2 | ア —肩関節脱臼 | イ —患部を安静にして、最も楽な姿勢のまま |
| 3 | ア —肩関節脱臼 | イ —患部を安静にして、できるだけ整復してから |
| 4 | ア —肩関節捻挫 | イ —整復してから |
| 5 | ア —肩関節捻挫 | イ —患部を安静にして、最も楽な姿勢のまま |
| 6 | ア —肩関節捻挫 | イ —患部を安静にして、できるだけ整復してから |

[問 2] 次の文章は、けが及びその処置に関する事例である。文章中の空欄 **ア** に当てはまるものとして最も適切なものは、A群の1～4のうちではどれか。また、文章中の空欄 **イ** に当てはまるものとして最も適切なものは、B群の1～6のうちではどれか。解答番号は**ア**が **4**、**イ**が **5**。

高等学校2年生の生徒Aが、焦った様子で保健室に来室し、養護教諭Bに対して「先生、授業中にバドミントンをしていてCさんがけがをしたみたいで動けないから、体育館に来てください。」と伝えた。

生徒Aと養護教諭Bが体育館に行くと、生徒Cが、左足首の後ろを痛そうに押さえながら、教諭Dに付き添われて座っていた。養護教諭Bが、生徒Cに事情を聞いたところ、生徒Cは、「左足首の後ろが痛い。スマッシュをしようとして飛び上がって、着地したときに後ろから足を蹴られたような気がして、ブチッと音がした。」と、言った。養護教諭Bは、教諭Dに生徒Cが後ろから蹴られるような状態はなかったことを確認した。

養護教諭Bは、生徒Cの左足首を観察した。生徒Cの左足首の後ろは落ちくぼみ、養護教諭Bがその部位に触れると、生徒Cは「痛い。」と強い痛みを訴えた。

このことから養護教諭Bは、**ア**を疑い、すぐに**イ**医療機関に付き添って受診させた。

【A群】

- 1 こむらがえり
- 2 肉離れ
- 3 アキレス腱断裂
- 4 腱鞘炎

【B群】

- 1 伸縮包帯で患部を圧迫し、患部を含んだ足首から膝までを固定して、冷却しながら
- 2 伸縮包帯で足首を90度の状態で圧迫固定して、冷却しながら
- 3 最も楽な姿勢のまま包帯で足首を固定して、冷却しながら
- 4 足首を90度の状態で足裏から大腿まで副子を当て、包帯で固定してから
- 5 つま先を伸ばした状態で足の甲側に副子を当て、足裏と大腿の位置で固定してから
- 6 つま先を伸ばした状態をできるだけ自力で保持させて

[問 3] 気道異物除去に関する記述として最も適切なものは、次の 1～4 のうちではどれか。解答番号は 。

- 1 声が出ないか強い咳ができないときは、背部叩打法、腹部突き上げ法のどちらか一方を選択し、異物が取れるまで続ける。腹部突き上げ法を行い異物が取れたときには、医療機関の受診は不要である。
- 2 腹部突き上げ法は、傷病者の後ろに回り、両方の手を脇から通し、片方の手で握りこぶしを作り、傷病者の下腹部に当てる。こぶしを作った手をもう片方の手で握り、体を密着させずにゆっくり手前下方に向かって圧迫する。
- 3 背部叩打法は、傷病者を立位、座位又は横向きで寝かせるなどの姿勢をとらせる。続いて傷病者の後方から、救助者の片手の手掌基部で左右の肩甲骨の中間辺りを何度も連続して強く叩く。
- 4 傷病者がぐったりして反応がなくなった場合は、ただちに心停止に対する心肺蘇生を行う。傷病者の口の中に異物が見えない場合は、異物が見つかるまで指で探り、胸部圧迫を長時間中断してでも異物除去を優先する。

[問 4] 腹痛に関する記述として最も適切なものは、次の 1～4 のうちではどれか。解答番号は 。

- 1 急性虫垂炎の症状では、始めは上腹部を痛がり、しだいに腹痛が右下腹部に集中してくる。マックバーネー点は、虫垂炎が疑われる圧痛点であり、臍と右上前腸骨棘とを結ぶ線の臍側から 1 / 5 の点である。疑いがあれば医療機関の受診を勧める。
- 2 腹膜刺激症状には、触診で腹部を手で押したときよりも急に離れたときに強い痛みを訴える症状があり、これを筋性防御という。また、強い腹痛があり体を少しでも動かすと痛みが増すなどの症状がある。急性腹症を疑い、医療機関の受診を勧める。
- 3 過敏性腸症候群は、反復する腹痛や腹部不快感がある。排便により腹痛が改善されることが特徴で、下痢又は下痢と便秘が交互にくるといった症状を伴うことが多い。腸に炎症や腫瘍などの器質的病変が必ず認められ、心理的ストレスや腸管の運動異常などで起こる。
- 4 精巣捻転は、精巣が捻転して血流障害を起こす疾患である。思春期に多く、腹痛を主訴とすることもあるので鑑別診断が重要である。患側の陰嚢は発赤、腫大していて、圧痛がある。放置すると精巣が壊死するので、緊急手術が必要である。

3

保健管理に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 次の図は、ある児童の「児童生徒健康診断票（歯・口腔）」の一部である。この図から読み取れることとして、「児童生徒等の健康診断マニュアル 平成27年度改訂」（公益財団法人 日本学校保健会 平成27年 8 月）に照らして適切なものは、下の 1～5 のうちのどれか、二つ選び答えよ。ただし、選んだ数字の小さい順にマークすること。解答番号は 8、9。

顎関節	歯列・咬合	歯垢の状態	歯肉の状態	歯式																学校歯科医所見		
				8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8			
①	0	0	0					4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8	CO GO		
1	①	1	①	上			右	E	D	C	B	A	A	B	C	D	E	左			上	
2	2	②	2	下			右	E	D	C	B	A	A	B	C	D	E	左			下	
				8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8			

（公益財団法人 日本学校保健会「児童生徒等の健康診断マニュアル 平成27年度改訂」より作成）

- 1 現在歯は、乳歯が 5 本、永久歯が 18 本である。
- 2 保存の適否を慎重に考慮する必要がある乳歯は、2 本である。
- 3 むし歯の初期症状を疑わせる歯は、1 本である。
- 4 むし歯の未処置歯は 4 本、処置歯は 2 本である。
- 5 DMF 歯数は、5 本である。

[問 2] 歯・口腔についての保健指導に関する記述として最も適切なものは、次の 1～4のうちではどれか。解答番号は 。

- 1 小学校3年生の児童Aは、歯科検診の結果、歯列・咬合の状態について「2」と診断された。また、日頃から爪噛みの癖があった。歯列不正・咬合異常は、矯正治療が必要なので、すぐに歯科医療機関で矯正装置を用いた治療を開始するように保護者に伝えた。
- 2 小学校5年生の児童Bは、歯科検診の結果、「CO要相談」と診断された。児童Bに対しては、う歯の初期病変の兆候があり、放置するとむし歯に進行する可能性があるとして説明した。また、現段階では歯科医療機関への受診は必要ないが、家庭で注意深く観察するよう保護者に伝えた。
- 3 中学校1年生の生徒Cは、歯科検診の結果、歯垢の状態と歯肉の状態について「1」と診断された。生徒Cに普段の歯磨きについて尋ねると、歯面と咬合面しか磨いていないことが分かった。そこで、規則的な食生活を送ることに加えて歯と歯ぐきの境目の歯垢の除去を目的にしたブラッシングの方法について指導した。
- 4 高等学校1年生の生徒Dは、顎関節部の疼痛や関節雑音などの顎関節症状を訴えて保健室に来室した。生徒Dに対しては、顎関節症状の多くは一時的であって、年齢とともに消退することがほとんどなので、検査や診断は成人になってから受けるよう指導した。

〔問 3〕 予防接種に関する次の(1)、(2)の各問に答えよ。

(1) 次の文章は、定期予防接種に関するものである。文章中の空欄 **ア** に当てはまる最も適切なものは、下の 1～4 のうちではどれか。解答番号は **11**。

ジフテリア、百日せき、急性灰白髄炎及び破傷風について同時に行う第 1 期の予防接種は、初回接種については生後 3 月に達した時から生後 12 月に達するまでの期間を標準的な接種期間として 20 日以上、標準的には 20 日から 56 日までの間隔をおいて 3 回、追加接種については初回接種終了後 6 月以上、標準的には 12 月から 18 月までの間隔をおいて 1 回行う。

第 2 期の予防接種は、11 歳に達した時から 12 歳に達するまでの期間を標準的な接種期間として **ア** を 1 回接種する。

(厚生労働省「定期接種実施要領」から作成)

- 1 沈降ジフテリア百日せき混合ワクチン
- 2 百日せき急性灰白髄炎混合ワクチン
- 3 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド
- 4 急性灰白髄炎破傷風混合トキソイド

(2) 予防接種法に基づく定期接種のワクチンに関する記述として最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 。

- 1 ヒトパピローマウイルス感染症のワクチンは、2008年12月より国内で接種可能となり、2013年4月より定期接種に導入された。標準として、生後2月以上7月未満で接種を開始することとなっている。
- 2 日本脳炎のワクチンは、標準として、生後5月に達したときから生後8月に達するまでの期間に1回経皮接種する。このワクチンを接種した場合、コッホ現象が出現することがある。
- 3 B型肝炎のワクチンは、標準的な接種期間が第1期と第2期にわかれており、いずれも不活化ワクチンの接種を行う。2017～2024年度における予防接種の特例に係る積極的な勧奨が行われている。
- 4 水痘のワクチンは、2014年10月より定期接種に導入された。2回の接種を行うこととなっており、1回目の接種は、標準的には生後12月から生後15月に達するまでに行い、2回目の接種は、標準的には1回目の接種後6月から12月までの間隔をおき行うこととなっている。

[問 4] 光化学スモッグに関する次の(1)、(2)の各問に答えよ。

- (1) 次の事例の下線部①～④の対応のうち、「令和2年度 学校における光化学スモッグ対策」(東京都教育委員会 令和2年5月)に照らして**適切でないもの**は、下の1～4のうちではどれか。解答番号は 13。

小学校に勤務する養護教諭Aは、学校における光化学スモッグ対策について職員会議で次の内容を教職員に周知し、共通理解を図った。

- 児童は、朝食ぬきの場合に光化学スモッグの影響を受けやすいので、光化学スモッグの発生時期には、体育などの屋外活動は1・2校時以外や気温の高い昼食後の5・6校時に割り当てること。^①
- 始業時や屋外活動の前には、視程障害の有無や東京都環境局のホームページなどを確認し、光化学スモッグの予報や学校情報などに注意すること。

ある日、光化学スモッグ注意報が発令されたため、養護教諭Aは、管理職と相談し、直ちに校内放送で全児童・教職員に周知した。続けて教職員には、児童の健康観察を行い、異常があればすぐに報告することや、なるべく戸外に面した窓を閉め、やむを得ず戸外に面した窓を開けるときは、カーテンを閉めるよう指示した。管理職は、屋外活動や体育を予定していた学級には、指導計画を変更するなどして努めて屋外活動を避けるように指示した。養護教諭Aは、症状を訴える児童が下校時間までにいなかったことを確認し、管理職に報告した。放課後、注意報が解除されていなかったが、学級担任は児童を直ちに下校させた。^④

- 1 下線部①
- 2 下線部②
- 3 下線部③
- 4 下線部④

(2) 光化学スモッグ対策に関する記述として、「令和2年度 学校における光化学スモッグ対策」(東京都教育委員会 令和2年5月)に照らして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 。

- 1 光化学スモッグ注意報の発令基準は、オキシダントの大気中における含有率が0.05ppm以上である状態になり、気象条件からみてその状態が継続又は悪化すると認められるときである。
- 2 ぜんそく、慢性気管支炎等の治療中の者又は既往症のある者は、光化学スモッグの影響により重症化するおそれがあるので、学校においては、平素からこれらに該当する児童・生徒を個々に把握し、関係教職員に周知しておく。
- 3 目がチカチカする、涙が出る、目や喉の痛みがあるなどの症状を訴える者に対しては、水道水で洗眼及びうがいさせる。目や喉だけの症状であれば、保健所等への報告の必要はない。
- 4 呼吸困難、けいれん、意識障害等の重い症状の者が出た場合は、記録をとりながら養護教諭が一人で経過観察を行うために、軽症者と同室にて休養させる。帰宅する際には、保護者に連絡し経過を伝えるとともに、帰宅後には、症状を注意深く観察し、状況によっては受診するよう勧める。

[問 5] 次の事例の下線部①～③のうち、消毒に関する記述として適切なものは、A群の1～3のうちどれか。また、文章中の空欄 **ア** に当てはまるものとして最も適切なものは、B群の1～4のうちではどれか。解答番号はA群が **15**、B群が **16**。

養護教諭Aは、耳鼻科検診の準備をしていた。最初に、検診で使用する耳鏡を十分に洗浄した。その後、消毒をするために、煮沸消毒器に耳鏡と水を入れ、沸騰させてすぐに火を止めた。煮沸消毒法は、学校でも簡便に行える消毒法である。^①

次に、学校医が検診中に使用する消毒液として消毒用エタノールを準備した。消毒用エタノールは、皮膚や粘膜への刺激が少ないが、引火性がある。^②

耳鼻科検診終了後、使用済みの耳鏡を十分に洗浄し、塩化ベンザルコニウム消毒液に浸して消毒した。その際、10%の塩化ベンザルコニウムを用いて0.2%の消毒液を3,000mL作るために、**ア** の水で希釈した。^③

【A群】

- 1 下線部①
- 2 下線部②
- 3 下線部③

【B群】

- 1 2,400mL
- 2 2,700mL
- 3 2,940mL
- 4 2,994mL

4 からだの仕組みと疾病等に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 脊柱側弯症に関する記述として「児童生徒等の健康診断マニュアル 平成27年度改訂」(公益財団法人 日本学校保健会 平成27年8月)に照らして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 。

- 1 立位検査では、後ろ向きにまっすぐ立たせ、肩の高さの左右差の有無、肩甲骨の高さや後方への出っ張りの左右差の有無、ウエストラインの左右差の有無を確認する。
- 2 前屈テストでは、ゆっくり前屈させながら背中の肋骨の高さの左右差の角度を測定する。この肋骨の高さの左右差の角度をコブ角といい、側弯の大きさを表す。
- 3 健康診断においては、機能性側弯症の早期発見が重要で、その特徴は脊柱の回旋変形であり、前屈したときに背部の高さの左右差が生じる原因となっている。
- 4 脊柱側弯症は、姿勢の悪さ、鞆の重さや持ち方、過激な運動をするなどの原因で生じることが多い。

[問 2] バイタルサインに関する記述として最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 。

- 1 血圧計のマンシエットの選択は血圧測定において重要で、特に体格の大きく異なる小児では体格にあわせたマンシエットを選択することが大切である。マンシエットが大きすぎると血圧は高く、小さすぎると低く測定されるので注意する。
- 2 体温低下は、体熱の産生が増加した場合や体熱の放散が減少した場合に起こる。低体温は、全身衰弱、栄養失調、甲状腺機能亢進、広範囲の熱傷、寒冷環境にさらされた場合などに起こる。
- 3 脈拍測定をする際、橈骨動脈で測定できない場合は、上腕動脈や総頸動脈で測定する。測定部位の動脈走行に沿って、第1指を軽く当てる測定方法が最も正確である。脈拍数は年齢が増すにしたがって増加する。
- 4 傷病者に反応がない場合、胸と腹部の動きを見て呼吸があるか確認する。傷病者に呼吸がないか死戦期呼吸が認められる場合、あるいはその判断に自信がもてない場合は心停止と判断し、心肺蘇生を始める。

[問 3] 心臓に関する次の(1)、(2)の各問に答えよ。

- (1) 次の図は、心臓の刺激伝導系の器官を模式的に表したものである。この図中のア・イの器官の名称として適切なものは、下のA群の1～5のうちのどれか、それぞれ選び答えよ。また、ア・イの器官に関する記述として最も適切なものは、次ページのB群の1～4のうちではどれか、それぞれ選び答えよ。解答番号は、器官の名称についてはアが 、イが 、器官に関する記述についてはアが 、イが 。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

【A群】

- 1 洞房結節
- 2 房室結節
- 3 ジェームス束
- 4 ケント束
- 5 ヒス束

【B群】

- 1 電氣的興奮を房室束より心室に伝え、心室を収縮させる。興奮の伝導速度は遅くなるため、心房の収縮が終わってから、心室の収縮が起きる。
- 2 電氣的興奮を房室束より心房に伝え、心房を収縮させる。興奮の伝導速度は遅くなるため、心室の収縮が終わってから、心房の収縮が起きる。
- 3 心臓のリズムをつくるところで、ペースメーカーと呼ばれる。ここから発生した電氣的興奮がまず心室筋を興奮させ、心室の収縮が起きる。
- 4 心臓のリズムをつくるところで、ペースメーカーと呼ばれる。ここから発生した電氣的興奮がまず心房筋を興奮させ、心房の収縮が起きる。

- (2) 次の図は、心電図の波形を模式的に表したものである。心電図の波形や不整脈に関する下の記述ア～エのうち、正しいものの組合せとして最も適切なものは、下の1～6のうちではどれか。解答番号は 。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

- ア 心電図は、心臓のどの部位に異常があるのか推測するのに有効である。①の範囲にある波は、心室筋の興奮を表す。
- イ WPW症候群は、②の範囲の始まりに特徴的なデルタ波を認める。一部の症例に合併症として発作性上室頻拍を起こすことがあり、動悸、息切れ、全身倦怠、顔面蒼白などがみられる。
- ウ QT延長症候群は、③の範囲の時間が長く、突然、特有の心室頻拍や心室細動が出現し、失神したり突然死したりする可能性のある疾患である。
- エ ④の範囲にある波は、心房の興奮からの回復を表す。この波は、心房筋の再分極によって起きる。

- 1 ア・イ
- 2 ア・ウ
- 3 ア・エ
- 4 イ・ウ
- 5 イ・エ
- 6 ウ・エ

[問 4] 耳に関する次の(1)、(2)の各問に答えよ。

- (1) 次の図は、耳の構造を模式的に表したものである。この図中のア・イの器官の名称として適切なものは、A群の1～7のうちのどれか、それぞれ選び答えよ。また、ア・イの器官の説明として最も適切なものは、B群の1～5のうちではどれか、それぞれ選び答えよ。解答番号は、器官の名称についてはアが 、イが 、器官の説明についてはアが 、イが 。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

【A群】

- 1 耳管
- 2 前庭
- 3 三半規管
- 4 鼓室
- 5 蝸牛
- 6 ツチ骨
- 7 内耳神経

【B群】

- 1 主に身体の傾きを感じとる器官である。
- 2 主に身体の回転を感じとる器官である。
- 3 内部にコルチ器があり、有毛細胞が並んでいる。
- 4 この器官に付いている筋の収縮によって、内耳に過剰な音刺激が入るのを防ぐ。
- 5 中耳の内圧と外気圧を等しく保ち、鼓膜の振動を助ける。

(2) 難聴に関する記述として最も適切なものは、次の 1～4 のうちではどれか。解答番号は 。

- 1 伝音難聴は、鼓膜穿孔や中耳炎など外耳から中耳に原因がある場合に生じる難聴である。骨導聴力は低下するが、気導聴力は低下しない。
- 2 突発性難聴は、通常両側性であり、一側性はまれである。ウイルス感染、循環障害など複数の病因が推定されており、発症時にめまいを訴えることがある。
- 3 ウイルス感染による難聴のうち、風疹ウイルスは、後天性難聴の原因となることが多い。
- 4 ヘッドホン難聴や音響外傷などの音響性難聴は、4,000Hzの周波数帯の聴力低下を示すことが多い。

5 今日的な教育課題に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 性教育に関する記述として、「性教育の手引」(東京都教育委員会 平成31年3月)に照らして**適切でないもの**は、次の1～4のうちのどれか。解答番号は 29。

- 1 性教育の内容は、体育科、保健体育科はもとより、家庭科、道徳科等の各教科、総合的な学習の時間・総合的な探究の時間及び特別活動に関連する内容が多くある。これらを相互に関連付けながら学校の教育活動全体を通じて行うことが必要である。
- 2 児童・生徒が心身の成長発達に関して適切に理解し、行動することができるようにする指導に当たっては、児童・生徒の身体的・精神的発達や性的成熟の個人差に十分配慮する必要があるため、集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスではなく、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリングを実施する。
- 3 学校における性教育は、児童・生徒の人格の完成を目指す人間教育の一環であり、人間尊重の精神に基づいて行われる教育であるため、人間の性を人格の基本的な部分として、生物的側面、心理的側面、社会的側面に加え、生命尊重から捉えるとともに、総合的に指導することが大切である。
- 4 学習指導要領に示されていない内容を指導する必要がある場合には、在籍する児童・生徒の状況から校長が判断し、事前に学習指導案を保護者全員に説明し、保護者の理解・了解を得た児童・生徒を対象にグループなども含めた個別指導を実施することなどが考えられる。

[問 2] 次の文章の下線部①～④のうち、「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」（文部科学省 平成27年4月）に照らして**適切でないもの**は、下の1～4のうちではどれか。解答番号は 30。

性同一性障害に関しては社会生活上様々な問題を抱えている状況にあり、その治療の効果を高め、社会的な不利益を解消するため、平成15年、性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律が議員立法により制定された。

性同一性障害者とは、法においては、「生物学的には性別が明らかであるにもかかわらず、心理的にはそれとは別の性別であるとの持続的な確信をもち、かつ、自己を身体的及び精神的に他の性別に適合させようとする意思を有する者であって、そのことについてその診断を的確に行うために必要な知識及び経験を有する二人以上の医師の一般に認められている医学的知見に基づき行う診断が一致しているもの」^②と定義されている。

保護者が、その子供の性同一性に関する悩みや不安等を受容している場合は、学校と保護者とが緊密に連携しながら支援を進めることが必要である。保護者が受容していない場合にあっては、保護者と十分話し合い可能な支援を行っていくことが考えられる。15歳未満については診断に慎重な判断が必要であり、性同一性障害の可能性が高い場合でもあえて診断が行われない場合もあるが、診断がなされない場合であっても、医療機関との相談の状況、児童・生徒や保護者の意向等を踏まえつつ、支援を行うことは可能である。^④

- 1 下線部①
- 2 下線部②
- 3 下線部③
- 4 下線部④

3 問題文中の $\boxed{2}$ 、 $\boxed{34}$ などの \square には、数字又は符号（-）が入ります。次の(1)~(4)の方法でマークしてください。

(1) $\boxed{2}$ 、 $\boxed{3}$ 、 $\boxed{4}$ 、……の一つ一つは、それぞれ1~9、0の数字又は符号（-）のいずれか一つに対応します。それらを $\boxed{2}$ 、 $\boxed{3}$ 、 $\boxed{4}$ 、……で示された解答欄にマークしてください。

例えば、 $\boxed{234}$ に -84 と解答する場合には、次の(例2)のようにマークします。

(例2)

解答番号	解答欄
$\boxed{2}$	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ●
$\boxed{3}$	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ● ⑨ ⑩ ⊖
$\boxed{4}$	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖

なお、同一の問題文中に $\boxed{2}$ 、 $\boxed{34}$ などが2度以上現れる場合、原則として、2度目以降は、 $\boxed{2}$ 、 $\boxed{34}$ のように細字で表記します。

(2) 分数形で解答する場合は、符号は分子に付け、分母に付けてはいけません。また、分数は既約分数で答えてください。

例えば、 $\frac{\boxed{56}}{\boxed{7}}$ に $-\frac{4}{5}$ と解答する場合には、 $\frac{-4}{5}$ として、次の(例3)のように

マークします。

(例3)

解答番号	解答欄
$\boxed{5}$	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ●
$\boxed{6}$	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖
$\boxed{7}$	① ② ③ ④ ● ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖

(3) 小数の形で解答する場合は、特に指示されていなければ、指定された桁数の一つ下の桁を四捨五入して答えてください。また、必要に応じて、指定された桁まで⑩にマークしてください。

例えば、 $\boxed{8.910}$ に 2.6 と解答する場合には、2.60 として答えてください。

(4) 根号を含む形で解答する場合は、根号の中に現れる自然数が最小となる形で答えてください。

4 「ただし、選んだ数字の小さい順にマークすること。解答番号は $\boxed{11}$ 、 $\boxed{12}$ 、 $\boxed{13}$ 。」と表示のある間に対して、 $\mathbf{2}$ と $\mathbf{5}$ と $\mathbf{8}$ と解答する場合には、次の(例4)のように「 $\mathbf{2}$ 、 $\mathbf{5}$ 、 $\mathbf{8}$ 」の順にマークします。

このとき、「 $\mathbf{2}$ 、 $\mathbf{5}$ 、 $\mathbf{8}$ 」以外の「 $\mathbf{5}$ 、 $\mathbf{2}$ 、 $\mathbf{8}$ 」や「 $\mathbf{8}$ 、 $\mathbf{2}$ 、 $\mathbf{5}$ 」などの順にマークした場合には、不正解となります。

(例4)

解答番号	解答欄
$\boxed{11}$	① ● ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖
$\boxed{12}$	① ② ③ ④ ● ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖
$\boxed{13}$	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ● ⑨ ⑩ ⊖

2 (3採用) 【 養護教諭 】

問題番号		解答番号	正答 1	正答 2	正答 3	配点	備考	
大問番号	小問番号							
1	問1	1	2			4		
	問2	2	3			4		
2	問1	3	2			4		
	問2	ア	4	3		6	完全解答	
		イ	5	5				
	問3	6	3			4		
	問4	7	4			4		
3	問1	8	1			6	完全解答	
		9	5					
	問2	10	3			3		
	問3	(1)	11	3			3	
		(2)	12	4			3	
	問4	(1)	13	1			3	
		(2)	14	2			3	
	問5	A	15	3			4	
		B	16	3			4	
	4	問1	17	1			3	
問2		18	4			3		
問3		(1)ア	19	1			3	
		(1)イ	20	2			3	
		(1)ア	21	4			3	
		(1)イ	22	1			3	
		(2)	23	4			4	
		(2)	24	4			4	
問4		(1)ア	24	6			3	
		(1)イ	25	5			3	
		(1)ア	26	4			3	
		(1)イ	27	3			3	
	(2)	28	4			3		
5	問1	29	2			4		
	問2	30	1			4		